

## 北海道社会学会ニュース

## H. S. A. NEWSLETTER

発行：北海道社会学会事務局  
〒060-0811 札幌市北区北11条西7丁目  
北海道大学大学院教育学研究院 上山研究室  
E-mail : hsa.sociology@gmail.com  
郵便振替口座 02760-3-3085 <http://www.hsa-sociology.org/>

HOKKAIDO SOCIOLOGICAL ASSOCIATION  
Kojiro UHEYAMA  
Faculty of Education, Hokkaido University,  
Kita11 Nishi7, Kita-ku, Sapporo, 060-0811 JAPAN

編集責任者：上山浩次郎（庶務理事） 北海道大学大学院教育学研究院 ueyama.kojiro@edu.hokudai.ac.jp  
〒060-0811 札幌市北区北 11 条西 7 丁目 TEL 011-706-4946

## 第 68 回 北海道社会学会大会について

梶井 祥子（研究活動委員長）

第 68 回大会は、2020 年 8 月 26 日、本学会にとっては初めての「オンライン大会」として開催いたしました。大会開催校の札幌学院大学には Zoom 会議のホスト役を担って頂きました。大会実行委員長の大國充彦会員、事務局長の高田洋会員、そして小内純子会員には大変お世話になりました。心より御礼申し上げます。初めてのオンラインでの大会ということで、当日のトラブルを回避するため、ホスト校を中心に入念な事前準備を行いました。「参加マニュアル」の作成、回を重ねたシミュレーション、参加者の事前申込受付、URL の配信など、これまでに経験したことのない配慮が求められることになりました。札幌学院大学の皆様には、例年にないご苦勞をおかけしたと思います。大会前々日には、司会者、一般報告者、シンポジウムの座長、登壇者、コメンテーターなど、関係者全員のご参加のもとでリハーサルも行いました。皆様のご協力のおかげで、実りのある大会が可能になったと感じております。本当にありがとうございました。

本大会の参加者は 40 名（うち一般会員 25 名、院生学生会員 9 名、非会員 6 名）でした。道外の会員からは、オンライン開催ということで参加しやすくなった、というご意見も頂きました。今後の大会開催のあり方について、選択肢が広がったようにも感じております。

大会開催が 6 月から 8 月に延期されたため、参加者の動向も懸念されましたが、6 件の一般報告について全員がじっくりと聞く機会となり、共有画面を通して新たな充実感も味わうことができました。部会の司会を担当して頂いた田島忠篤会員（モラロジー研究所）、西浦功会員（札幌大谷大学）にも心より感謝申し上げます。

大会シンポジウムは、小内透会員に座長を引き受けて頂き、「現代アイヌの生活と文化」のテーマで実施いたしました。小内座長の趣旨説明にあるように「ウポポイの開業とアイヌ施策推進法の成立」という状況のなかで時宜を得た企画でした。報告者として登壇された野崎剛毅会員（札幌国際大学短期大学部）、上山浩次郎会員（北海道大学）、コメンテーターの落合研一先生（非会員、北海道大学アイヌ・先住民研究センター）からは、限られた時間内にもかかわらず、現代のアイヌの人々の課題を捉えなおす射程について貴重な示唆を頂きました。

例年のように、大会後に飲食を共にしながらの歓談はできませんでしたが、これまた初めての試みとしてオンライン親睦会を催しました。新入会員の紹介やオンライン大会の感想など、小内純子会員の司会で和やかな時間を過ごすことができました。

初めてのオンライン大会ということで、理事の皆様にも事前のリハーサルなど様々な場面でご尽力を頂きました。多くの会員の皆様のおかげで、無事に大会を終えることができ安堵しております。次回大会につきましても、引き続きどうぞよろしく願い申し上げます。

第 68 回北海道社会学会大会シンポジウム  
「現代アイヌの生活と文化」感想

工藤 遥（拓殖大学北海道短期大学）

2019 年 5 月の「アイヌ施策推進法（略称）」施行や 2020 年 7 月の北海道白老町「民族共生象徴空間（通称ウポポイ）」の開業など、近年アイヌ民族に関わる様々な政策が推進されています。その一方で、現代アイヌの人々の生活実態は明らかにされていないことが多い状況にあります。本シンポジウムでは、北海道大学アイヌ・先住民研究

センターの社会調査プロジェクトに携わった登壇者らの報告に基づきながら、現代アイヌの生活・文化の現状と政策課題について議論がなされました。

野崎剛毅先生（札幌国際大学短期大学部）のご報告「アイヌ民族の教育経験と階層形成」では、アイヌの人々の高等教育進学への阻害要因についてご指摘がありました。また、アイヌの人々に学歴を問わない、地域特有の働き口を提供してきた「アイヌ労働市場」は、セーフティネットとして機能してきた一方で、進学から離脱しやすい文化を下支えし、不安定雇用や低所得といった経済的地位を再生産するメカニズムがあることが示されました。そして今後、「アイヌ労働市場」の衰退や変化により、次世代の進学や雇用状況が変わっていく可能性についても言及がなされました。

上山浩次郎先生（北海道大学）のご報告「戦後におけるアイヌ文化の変遷」では、法制度・政策レベルと生活レベルの2側面からアイヌ文化（実践）の変遷が整理されました。戦後しばらくは文化保護政策がとられる一方で次世代への文化伝承は意図的に避けられていたのが、その後、文化の伝承・学習・再興を図る施策や団体の設立とともに文化伝承も意図的に行われ始め、1997年以降は法制度・政策的な基盤がより強くなり、文化実践が組織的に行われるようになったとのご説明がありました。また、「アイヌ施策推進法」の施行が従来の福祉・文化政策から地域振興を含む総合政策への転換点になる可能性についてご指摘がありました。

以上の報告に対して、コメンテーターの落合研一先生（北海道大学アイヌ・先住民研究センター）からは、「文化を学ぶことは経済的地位の向上につながるか」という論点の提示と「ウポポイ」の意義を問うご質問がありました。それに対して報告者の先生方からは、アイヌ文化を残していくためにも、文化を学ぶことや民族性が一定水準の所得につながるようにすることが重要であること、また「ウポポイ」はアイヌの若者にとって一つの進路、労働市場のパターンになる一方で、雇用機会の拡大や進学率の向上に対する影響は限定的ではないかといったご見解が示されました。

「ウポポイ」をめぐるのは参加者からも、周辺地域の産業や雇用に対する波及効果や、民族共同体の生活空間としての機能、他地域のアイヌ文化発展に与える影響などについてご質問・ご意見が出されました。最後に、今回のシンポジウムと研究全般に対しては、アイヌの人自身に参加してもらう必要があったこと、他のマイノリティ研究と

の関連・比較から社会的な議論をさらに行っていく必要があるといった課題があげられました。

以上のように本シンポジウムでは、アイヌ民族をめぐる論点から、日本の民族・文化政策の課題や、北海道地域における教育や労働市場の問題、そして両者の関連など、多くの重要な問題提起がなされました。新型コロナウイルスが北海道の経済・社会生活に甚大な影響を与えている中で、アイヌの人々の生活・文化に関する調査研究は今後も継続的に行われる必要があると感じました。

最後になりましたが、司会の小内透先生、報告者の野崎先生、上山先生、コメンテーターの落合先生に御礼申し上げます。

### 第69回大会について

来年度の大会は札幌国際大学において開催します。開催日は2021年6月12日（土）の1日開催を予定しています。オンライン開催か対面開催か検討中です。決まり次第、ご連絡いたします。

### 2019年度第3回理事会報告

方法：メールによる持ち回り

日程：2020年9月9日（水）～末日

協議事項

1. 北海道社会学会機関誌編集委員会規定等について
2. 「シニア会員制度」の導入について
3. その他

### 2020年度第1回理事会報告

日時：2020年11月16日（月）19:00～21:00

方法：オンライン（リアルタイム）

出席者：梶井会長、原・小内・水川・角・高島・上山の各理事（西浦理事は欠席）

#### 1. 編集委員会

- 1) 『現代社会学研究』第34巻編集状況について  
自由投稿論文について査読者の選定を行っている。第68回大会のシンポジウム関連の論文を2本掲載予定。書評は2本検討中で、さらに数を増やす方向性で進める。自著紹介・往来などの依頼も行う予定である。

#### 2. 研究活動委員会

- 1) 2021年度第69回学会大会について

大会開催校：札幌国際大学（品川ひろみ会員、野崎剛毅会員）

開催日：2021年6月12日（土）

シンポジウム

- ・テーマ：在留外国人と共生社会（仮）
- ・司会：小内純子会員
- ・シンポジスト
  - ・宮入隆（北海学園大学教授・非会員）
  - ・新藤慶（群馬大学・会員）
- ・コメンテーター
  - ・人見泰弘（武蔵大学・会員）

### 3. 庶務

- 1) 2020年6月～11月までの会員異動はなし
- 2) 研究奨励金（2020年10月31日締め切り分）  
期日までに応募がなかったため、1月末日まで募集を延長することとなった。

### 4. その他

- 1) 北海道社会学会機関誌編集委員会規定等について  
次回の理事会での継続検討事項となった。
- 2) 「シニア会員制度」「会費減免制度」について  
会費減免制度として一本化して進めることとなった。来年度の総会での提案を目指すことが確認された。
- 3) その他  
略
- 4) 次回理事会について  
次回理事会を2021年2月下旬～3月上旬に開催することを確認した。

### 会員異動（2020年11月まで）

略

#### 北海道社会学会研究奨励金について（再募集）

北海道社会学会では社会学研究の活性化と若手の育成を目的として、2006年より研究奨励金を交付しています。下記の通り募集期間を延長いたし

ますので、ぜひご応募ください。

1. 募集件数：2件（1件5万円）
2. 応募資格：本会会員（若手単独が望ましい。若手とは、自分で科学研究費申請ができない地位にある大学院生や大学院修了者等を指す）
3. 条件：奨励金交付後2年以内の本学会大会での研究発表、および2年以内の『現代社会学研究』への投稿を条件とします。
4. 応募方法：まず応募用紙を庶務理事宛てe-mailでご請求ください。ついで応募用紙に下記を記入し、庶務理事まで郵送により提出してください。  
①研究テーマ、②応募者（氏名・所属）・郵便番号・住所・TEL・FAX・e-mailアドレス、③研究の目的と「社会学研究」としての意味・位置づけ等（具体的に）、④研究の方法と予想される成果（具体的に）、⑤推薦会員の署名と印
5. 提出期限：2021年1月31日（日）必着
6. 提出先・問い合わせ先：上山浩次郎（庶務理事、あて先は1ページ編集責任者欄参照）

### 会費の納入について

2020年度会費または未納分会費について、郵便振替用紙〔郵便振替口座02760-3-3085〕にてすみやかに振り込み手続きをお願いします。年会費は一般会員6,000円、学生・院生会員4,000円です。

2020年度会費を納入されていない方には、機関誌第33巻（2020年6月発行）をお渡しできません。5年間滞納されると、自然退会の扱いとなります。ご注意ください。

### 会員情報の変更届について

住所や所属が変更になったときは、遅滞なくメールで事務局（hsa.sociology@gmail.com）までお知らせください。その際、e-mailアドレスもお忘れなくご登録ください。ご協力をお願いいたします。